



▲ゴマフアザラシの子をスケッチする子どもたち。

## わが家自慢の味を競う

～第25回つけものフェスティバル～



1月10日(木)、市民会館で『第25回つけものフェスティバル』（同実行委員会主催）が開かれました。

同フェスティバルは、日本の伝統食を次世代にも引き継いでいくことを目的に毎年開かれているもので、つけものコンクールのほか、試食会や登別物産会による展示・即売も行われ、多くの方が訪れました。

コンクールでは、かす漬け、かすみそ漬け、魚漬け、ぬか漬け、アイディア漬けの5部門に、77人の市民から95点が出品され、わが家自慢の味を競いました。

審査では、市民団体の代表者らが審査員となり、各部門ごとに色や味、歯ごたえなどが吟味され、厳しい審査の結果、部門別に計15人が入賞し、表彰されました。

## 火災や災害のないまちに

～消防出初め式～

1月7日(月)、市民会館で『登別市消防出初め式』が行われました。

出初め式には、女性団員6人を含む消防団員をはじめ、陸上自衛隊幌別駐屯地の消防ポンプ班、消防職員の総勢159人と消防車両8台が参加。分列行進で入場し、市長の観閲を受けました。

登別市内の火災発生件数は、平成12年の27件から、13年の16件へと減少していますが、参加者は、今年も火災や災害のない安全なまちづくりへ決意を新たにしていました。



12月26日(木)、登別マリンパークニクスで、『アシカ博士教室』が開かれ、市内の小学3・4年生17人が参加しました。

初めに、子どもたちは、マリンパークの職員から、アザラシとの体の形や泳ぎ方の違い、生態などについてスライドを見ながら講義を受けました。

アシカショープールでは、アシカのえづけや調教の体験、プール内を見学したほか、昨年6月、顔にけがをして保護されているゴマフアザラシの子『ナビちゃん』のスケッチが行われました。

特に子どもたちを喜ばせたのは、アシカの調教体験。初めのうち子どもたちは少し緊張気味でしたが、指示したとおりに曲芸をするアシカを見て、顔をほころばせていました。

幌別小学校4年生の紺野あすかさんは、「アシカがいうことを聞いてくれて、うれしくなりました。アシカの頭の良さにはビックリ。とても楽しく勉強できました」と、感想を話してくれました。

子どもたちも、アシカの人調ひ教とを体験



# アシカの調教体験に

～アシカ博士教室～

## 干支みこしで新たな年を景気づけ！～干支みこし～

1月1日(火)、まちおこしグループ『のぼりべつ干支みこし会』による『干支みこし』が中央町で行われ、新たな年の景気づけを行いました。

『干支みこし』は毎年1基ずつみこしの数を増やしており、4回目となる今年は、兔、辰、巳に新たに干支の午みこしを加えた4基のみこしが登場。年明けの0時、担ぎ手たちの威勢の良い掛け声とともに兔みこしが幌別小学校前を出発し、辰、巳とみこしを変えながら、ゴールのらっぱ公園に向けて練り歩きました。

らっぱ公園に午みこしが到着すると、厳しい寒さの中、勇壮な姿で景気づけに一役買った約60人の担ぎ手たちに、観客から温かい拍手が送られました。

